

BB11011

授業科目	社会学基礎論 (Introduction to Sociology)		
担当教員	葛山 泰 央	研究室	人社A413
単位数	2単位	オフィスアワー	木曜 5時限
学期曜時限	1・2学期 木曜4時限	授業対象学生	1・2年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 近代社会の自己観察をテーマに、社会の内部観察(=社会への／からの視線)としての社会学的思考の成立と展開を、いくつかのテキストに即して紹介する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 【授業目標】この授業では、社会の内部観察としての社会学的思考の成立と展開を、いくつかのテキスト(マルクス、デュルケム、ヴェーバー、ジンメルなど)に即して紹介することを目的とする。 社会学はこれまで、「近代社会の自己観察」として成立し展開してきた。それは「社会秩序とは何か」という根本問題のもとで、社会の「階層的分化」から「機能的分化」への移行に見合う、数多くの命題を打ち立ててきた。しかし社会学は現在、その方法と対象を、次第に拡散させてゆく方向にある。現代の社会学が拡散してゆく事態は、現代社会そのものが拡散してゆく事態の、一つの効果に他ならない。近代の社会学は「社会の自己観察ないしは内部観察」として繰り広げられてきたのだが、現代の社会学は「社会そのものの拡散」や「内部観察そのものの動揺」(ルーマン)に向き合わなければならないのである。 この授業では、社会学的思考の成立と展開を辿り直してゆくなかで、社会の内部観察そのものの困難や不可能性を浮かび上がらせつつ、それらの困難や不可能性が近代・現代の社会学を「解体」させたのちに、近代・現代社会を観察するためのいかなる思考が残存しているのかを、探究することにしたい。 前半では、「社会的事象の探究」「19世紀と20世紀の社会学」「行為理論」「物象化論と存立構造論」という視角から、社会学的思考の成立と展開を主題化する。後半では、「構造主義」「知の考古学」「社会システム理論」「習俗の思考」「イメージの思考」という視角から、「来たるべき」社会学的思考の転回の可能性について考察する。 【授業内容】講義ならびに関連するテキストの分析を中心に進めたい。 【文献】見田宗介・栗原彬・田中義久(編)『【縮刷版】社会学事典』(弘文堂 1994年1月)ほか			
単位取得要件	各学期末のレポートを踏まえた総合評価(詳細は別途指示する)		
備考	社会学類以外の学生については、受講制限を実施する場合がある。		

BB11021

授業科目	現代社会論 (Contemporary Society)		
担当教員	野上 元	研究室	人社A412
単位数	2単位	オフィスアワー	メールでアボを取って下さい
学期曜時限	1学期 火曜5・6時限	授業対象学生	1・2年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 この授業では、世に溢れる新書や選書等を活用して現代社会の諸問題や諸現象を捉えるための基礎的な力を身につけることを目標にする。それらを題材に、社会学の様々な視点や方法・概念について解説し、身につけることを目指す。受講生には新書を中心としたブックリストを提示し、それなりの読書量を要求する予定。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 教科書はなく、講義ではブックリストを配布し適宜解説して行くが、その前提として、各自の主体的な読書が重要であることはいうまでもない。読書のポイントは、「どのような必要からその本は書かれたか」(①どのような読者に宛て、②どのような前提・常識に対する批判としてその本が書かれているか?)、「その本の主張の妥当性はどうか」(③どのようなデータを使用し、④そこからどのようにして知見を導き出しているか? ⑤議論の面白さと確度とはどのような配分になっているか?)などである。また、amazon等のブックレビューは、本を読み終わるまで絶対に読まないこと。書物から情報を取り出す能力が身につかない。 とりあえず導入として以下の参考文献を挙げておくので各自で読んでおくことよ。 ●見田宗介『現代社会の理論』岩波新書、1996年、●佐藤俊樹『社会は情報化の夢を見る』河出文庫、2010年、●野上元・福間良明編『戦争社会学ブックガイド』創元社、2012年			
単位取得要件	授業を踏まえ、現代社会論の理解に必要な知識を問う基礎的な試験を実施し、その後レポートを課す予定。		
備考	▼社会・国際学群 コア・カリキュラム 社会教育主事 比文(AC33 141)国際(BC11 801)と共通		

BB11 031

授業科目	社会の表象 ―社会学データ入門― (Studies on Sociological Data)		
担当教員	全 教 員	研究室	人社A412(科目責任者・野上元)
単位数	2単位	オフィスアワー	火曜4時限(事前メール優先)
学期曜時限	3学期 水曜4・5時限	授業対象学生	1・2年次
<p>【授業の目標と概要・学生への要望】 どのような分析・説明を試みるにせよ、データ(根拠)がなければただの推測でしかない。一方で、社会学においては多様なデータが採用される。本講義では、社会学専攻全教員によるリレー講義という形式を取りながら、社会学が用いる様々なデータ(社会統計、新聞・雑誌記事、手記・インタビュー、映像・画像など)について、その分析手法を交えてを紹介する。</p>			
<p>【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 授業の進行予定 (順番は変更する可能性がある。改めて後日掲示する) 第1回 インTRODクダクシヨ 第2回 都市社会学 第3回 医療社会学 第4回 知識社会学 第5回 ジェンダー論 第6回 社会階層論 第7回 社会意識論 第8回 文化社会学 第9回 歴史社会学 第10回 予備日</p> <p>講義では、各教員が専門とするそれぞれの分野に関連する社会学的データ(社会の表象)が紹介され、それらの適切な処理の仕方を通じて、社会を記述・分析するための具体的な手順が示される。受講者各自には、様々なデータを取り扱っていく(ことのできる)社会学という学問における方法の面白さや貪欲さ(・図々しさ)を学び取って欲しい。授業の教材となる社会学的データを含めて、それぞれの分野に関連する文献や資料については、授業内で指示する。</p>			
単位取得要件	学期末レポートによる(詳細については後日掲示)		
備考	社会・国際学群以外の学生については履修を制限する場合がある。		

BB11151

授業科目	家族社会学I (Sociology of the Family I)		
担当教員	樽 川 典 子	研究室	人社A407
単位数	2単位	オフィスアワー	火曜6時限
学期曜時限	1学期 木曜4・5時限	授業対象学生	2～4年次
<p>【授業の目標と概要・学生への要望】 家族は、近代化という社会変動の過程で発見され、それ以降つねに変化、変動、変容するものとして観察され論じられてきた。授業では、家族変動の代表的な理論を整理・検討したうえで、現代の家族変容がどのようにとらえられているかについて考察する。私たちは、家族について常識につよく拘束されている、それを疑ってみる目をもってもらいたい。</p>			
<p>【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】</p> <p>1. はじめに 【家族変動論】 2. Familyの発見: 制度・集団・ネットワーク 3. 「核家族化」: 普遍性、ひとり暮らしの意味 4. もう一つの言説: 「核家族化」と「家族機能の低下」の文脈</p> <p>【個人化の時代の家族】 5. 私領域における親密性と家族機能 6. 少子化とライフコース 7. 児童虐待: 家族をめぐるジレンマ 8. 家族の個人化とケア 9. 「家族」というフィクション: <癒し>と<葛藤> 10. おわりに</p> <p>第一回授業で参考文献リストを配布するので、少なくとも2,3冊は読むこと。</p>			
単位取得要件	授業期間中のブックレポートおよび学期末レポートによる		
備考	看護と共通		

BB11181

授業科目	組織社会学 (Sociology of Organizations)		
担当教員	奥山敏雄	研究室	人社A410
単位数	2単位	オフィスアワー	木曜4時限
学期曜時限	1学期 火曜4・5時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 近代的な組織原理をマクロな社会構造と関連づけて考察し、巨大組織が発展した20世紀の意味について理解するとともに、新たな組織の仕組みが模索されている現在の位置について考える。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 以下のサブテーマについて検討を加える。1 組織をどのように理解するか 2 近代的組織原理とはどのようなものか 3 近代社会の機能的分化と近代的組織原理 4 産業社会の変容と組織の変容 5 新たな組織原理へテキストは特に指定しないが、授業の中で紹介する参考文献を読むこと。			
単位取得要件	期末試験による		
備考	組織社会学Ⅰの単位取得済みの者は履修できないので要注意のこと		

BB11251

授業科目	知識社会学 (Sociology of Knowledge)		
担当教員	葛山泰央	研究室	人社A413
単位数	2単位	オフィスアワー	木曜5時限
学期曜時限	3学期 月曜5・6時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 〈狂気の歴史〉の再考をテーマに、西欧近代社会における狂気を巡る言説の歴史を、狂気と非理性との関係、精神異常の形象と精神病院の誕生、狂気と人間の真実とが形作る人間学的円環、異常者／犯罪者を取り巻く諸言説の闘争、精神医学の知と権力などの主題を再検討しつつ考察する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 【授業目標】この講義では、西欧近代社会における狂気を巡る言説の歴史について、関連する文献やテキストの分析を通して検討するなかで、人間学的想像力の現在を探究することを目的とする。 ミシェル・フーコー(Michel Foucault 1926-1984)は『古典主義時代における狂気の歴史(Histoire de la folie à l'âge classique)』のなかで、狂気の近代的経験の構造が成立する歴史的過程を記述することを通して、近代の精神医学による「狂人の解放」という神話を批判した。古典主義時代を特徴付けてきた監禁の衰退は、狂気の近代的経験の構造とそこに組み込まれた人間学的円環から帰結したのであり、狂気は狂気それ自体を疎外する構造を備えた認識に対して解放されたのである。この講義では、同書における、狂気と理性との分割＝分有、古典主義時代における大いなる監禁[一般施療院とデカルト]と非理性の世界、理性の不安[サドやゴヤ]と新たな分割＝分有、近代性の時代における精神異常の形象と精神病院の誕生、狂気と人間の真実とが形作る人間学的円環、非理性という余白、営みの不在としての狂気、などの主題を再検討することにした。 この講義ではさらに、フーコーによるコレージュ・ド・フランスでの演習・共同研究『私、ピエール・リヴィエールは…(Moi, Pierre Rivière…)』とコレージュ・ド・フランスでの講義『精神医学の権力(Le pouvoir psychiatrique)』を再検討することにした。前者では、一九世紀前半にノルマンディー地方の農村で発生した尊属殺人事件の記録が取り上げられ、殺人者／異常者を攻囲する諸言説の闘争ないしは諸制度の複合的連関を通して、「怪物」として名指される虚構の身体の周囲に張り巡らされた知と権力の諸関係が逆照射される。そして後者では、一九世紀以降の精神医学の歴史が取り上げられ、認識場としての精神病院とそこを貫く精神医学の知と権力の諸関係、脱精神医学化の二つの形態[精神薬理学と精神分析]、反精神医学と狂気の脱医学化の可能性、などの主題を通して、狂気の実の生産を認識関係とは別の仕方では実現させることは可能か、という問いが探究されることになるだろう。 【授業内容】講義ならびに関連する文献やテキストの分析を中心に進めたい。 【文献】ミシェル・フーコー『古典主義時代における狂気の歴史』[日本語訳は新潮社]			
単位取得要件	学期末のレポートによる評価(詳細については別途掲示する)		
備考			

BB11561

授業科目	労働社会学 (Sociology of Labor)		
担当教員	森 直 人	研究室	人社A409
単位数	2単位	オフィスアワー	メールにて随時相談
学期曜時限	1・2学期 金曜4時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 年功賃金・終身雇用・企業別組合、さらには新規学卒一括採用・職能資格制度・人事査定・ジョブローテーションなどをメルクマールとする「日本型雇用システム」の形成過程について、歴史社会学的な観点から検討する。とくに新規学卒労働市場・企業内キャリアの制度化過程に焦点をおき、大学生の就職活動など今後の「日本の雇用慣行」の行く末を展望する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 19C後半からの約1世紀にわたる「日本型雇用システム」の形成過程を検討の対象とする。ただし、検討の焦点は主に新規学卒者定期採用制および企業内キャリアと雇用関係の制度化過程に置かれる。それらを日本のホワイトカラーとブルーカラーとの間の特徴的な相互関係の展開過程として捉え、歴史社会学的な考察を加える。 菅山真次『「就社」社会の誕生：ホワイトカラーからブルーカラーへ』（名古屋大学出版会、2011年）の叙述を基底に据えつつ各論点を社会学の視角・概念を用いて敷衍していくので、受講者は授業外にこの文献を必ず参照すること（文献の入手方法については1回目の授業で指示する）。歴史的な検討を踏まえた上で、授業の最後には現在の「日本の雇用慣行」の行く末について、現状分析の知見を踏まえながら考察する。 授業進行予定の概要は以下の通り。 1. 問題としての「日本型雇用システム」 2. ～1910年代：大工場労働者の職歴・賃金・熟練形成と職員層（技術者・事務職員）のキャリア形成 3. 1920～30年代：学校による就職斡旋と新規学卒採用の制度化の起源 4. 1940～50年代：日本の雇用関係／企業システムの形成 5. 高度成長期：戦後新規学卒労働市場の制度化過程と「間断のない移行」システムの形成 6. ポスト高度成長期～：「能力主義管理」の展開とその変容、現状分析と今後の展望 【参考文献】 菅山真次、2011、『「就社」社会の誕生：ホワイトカラーからブルーカラーへ』名古屋大学出版会			
単位取得要件	授業中に課される小課題と期末レポート論文による評価。		
備考			

BB11481

授業科目	コミュニケーション論A (Communication A)		
担当教員	海 後 宗 男	研究室	
単位数	1単位	オフィスアワー	
学期曜時限	1学期 月曜5時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 現代の文化におけるコミュニケーションとメディアの関わりについて検討し、メディアの提供する情報が人間や社会に与える影響も考えてきます。コミュニケーション論の過去の研究の紹介をしていきます。要望：授業中の入退室は禁止する。マナーを守れない学生は受講しないこと。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 情報はいたるところに存在します。私たちは情報の波にもまれながら、一方で様々なメディアを使い分け、また一方では、常にメディアの与える情報に影響されながら、生活しています。この高度情報化社会と呼ばれる状況は、私たちの生活にとって実際にはどのような意味を持つのでしょうか。多種多様なコンテキストで使用されている「コミュニケーション」という言葉は、何を指しているのでしょうか。現代社会におけるメディア・情報通信技術とコミュニケーションのあり方を考え、コミュニケーション論に関わる研究分野の諸理論と、研究方法について学習することを目的とする。参考文献は開講時に指示。			
単位取得要件	各種課題の提出状況・出席・最終レポートによる評価。学習態度とマナーを重視。		
備考	比文(AC33 021)と共通、コミュニケーション論A・B共に受講すること。		

BB11491

授業科目	コミュニケーション論B (Communication B)		
担当教員	海 後 宗 男	研究室	
単位数	2単位	オフィスアワー	
学期曜時限	2・3学期 月曜5時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 現代の文化におけるコミュニケーションとメディアの関わりについて検討し、メディアの提供する情報が人間や社会に与える影響も考えてきます。ニュース、メディア暴力、情報通信技術をトピックとして扱っていきます。要望：授業中の入退室は禁止する。マナーを守れない学生は受講しないこと。卒業年度の学生(4年生以上)は履修する前に必ず相談すること。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 メディア・コミュニケーション論。 情報はいたるところに存在します。私たちは情報の波にもまれながら、一方で様々なメディアを使い分け、また一方で、常にメディアの与える情報に影響されながら、生活しています。この高度情報化社会と呼ばれる状況は、私たちの生活にとって実際にはどのような意味を持つのでしょうか。多種多様なコンテキストで使用されている「コミュニケーション」という言葉は、何を指しているのでしょうか。現代社会におけるメディア・情報通信技術とコミュニケーションのあり方を考え、コミュニケーション論に関わる研究分野の諸理論と、研究方法について学習することを目的とする。参考文献は開講時に指示。			
単位取得要件	各種課題の提出状況・出席・最終レポートによる評価。学習態度とマナーを重視。		
備考	比文(AC33 021)と共通、コミュニケーション論A・B共に受講すること		

BB11421

授業科目	情報文化概論A (Introduction to Informational Culture A)		
担当教員	仲 田 誠	研究室	
単位数	1単位	オフィスアワー	
学期曜時限	1学期 水曜1時限	授業対象学生	1・2年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 マス・コミュニケーション理論の基礎について学習する。大衆文化論についてもとりあげる。ビデオ資料なども使用して多方向から学習をすすめる。CM、映画、漫画、音楽などもとりあげ、そこにどのような価値観や意味が表現されているか、「物語論」や想像力、メディア産業論の視点から考える。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 内容 情報文化概論Aでは、メディア研究・情報社会論の基礎を学ぶと同時に、「想像力」、「物語論」、「存在論的フレーム」という従来のメディア論・情報社会論では欠けていた議論、視点について補足し、メディアや情報通信技術の影響力を根源的な部分から問い直す。具体的には、以下のようなアポリア問題を考えながら、メディア・情報通信技術の影響力について深層の部分から考える。1) テレビや映画のロケ地へ行って、ドラマや映画の登場人物がした行動をそのまま真似したくなる気持ち(ハンカチをプラットホームの手摺りに結びつけるなど)。2) 映画やテレビドラマの登場人物が虚構の存在でしかないにもかかわらず、彼らが死んだり挫折したりすると、自分も深い喪失感を感じることもある。3) CMがCMであり、それが宣伝であるとわかっていても、CMのおとぎ話に影響されて商品を買ってしまう。4) 自分が直接体験したことを、ブログであらためて表現し直し、自分を他者の目で見ないと気が済まない「間接体験化」への衝動。5) 携帯電話で親しい人と話したり、深夜に長電話したりしている時に、もう一人の自分が自分の行為を傍らで見守っているように感じることもある。こうした問題・現象は、「事実」や「客観的真理」を重視する科学的図式や、「象徴的意味の世界を事物的因果論でおきかえる存在者(死んだ事物)の視点(ハイデガー)」では説明できないものである。従来のメディア・情報研究において欠けていた「想像力」、「物語論」、「解釈学・存在論的フレーム」という視点が必要とされるのである。細かい授業内容は、以下のような題材をとりあげる予定。～「ERのイメージ」、「湾岸戦争の意味」、「ニュースと想像力」、「映画やドラマで話題になった場所へ行ってみたい心理」、「物語的想像力とCM、歌、マンガ」、「統合失調症・失認症患者と想像力の喪失」。前期の授業の中でとりあげる「想像力」の問題は、情報文化概論Bの主要なテーマである情報社会論の問題について考える上でも重要な視点である。 評価方法・基準試験・出席・レポート等による総合評価 教科書：『メディアと異界』、仲田誠、砂書房			
単位取得要件			
備考			

BB11431

授業科目	情報文化概論B (Introduction to Informational Culture B)		
担当教員	仲田 誠	研究室	
単位数	2単位	オフィスアワー	
学期曜時限	2・3学期 水曜1時限	授業対象学生	1・2年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 情報社会論の背後にある世界観、人生観についてとりあげ、多メディア社会・情報社会の中で私たちがどのように生きていくべきか考える。あわせて、日本的価値観、社会観、人生観についてとりあげ、情報化と日本的価値観の関係について考えながら、今後日本社会の進むべき方向について考える。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 1. 「世界には想像力やイメージを通じてしか見えない意味がある」といことについて考える。認知科学や精神医学の知見をとりあげながら、メディアにおける想像力の問題について理解する。2. 「メディアは「物語」や「表現」を通じてこの意味を見えるようにし、また新しい意味をつくりだす」ということを精神医学や哲学、社会学、心理学の考え方を紹介しながら理解する。3. 「このような「物語」や「表現」を通じてつかむことができる意味は科学や論理学で考えるような意味とは違う」ということを映画、CM、ドラマにおける「物語」や「表現」の特徴を紹介しながら勉強する。4. 「人間の知恵には、科学的な知恵と物語的な知恵の両方がある」ということを、情報社会における「情報」の考え方や人工知能に関する議論を紹介しながら説明する。5. 「メディアは物語的な意味を通じて、人生に大切なもの、「生きる意味」とか「他人との関わり」とか、「社会の中でのルール」とかを私たちに教えている」ということを理解する。6. 「情報社会論」の基礎を学ぶ。7. 「情報社会論」が私たちに特定の価値観を教えるものであることを理解する。この価値観とは、「知能とは明確なルールに従うことである」という考え方や、「個人の自由な競争が社会や市場を発展させる」という考え方と結びつくものである。8. ブログやSNSを経由しての自己表現やコミュニケーションのありかたについて学び、そうしたものの背後にある価値観について考える。自分のことを自分で理解するためには、日記などの「自己表現」の手段が必要であることなどを学ぶ。9. ブログやSNSにおける様々なルールについて学ぶ。ルールとは人間がつくりだすものであるが、一度ルールをつくると、このルールが人間を逆に支配するようになることをSNSやゲームなどを例にあげながら考える。10. 「物語」のルール、「表現」のルール、ブログやSNSのルールの共通点、相違点について考える。11. 日本的な人間関係のルールと情報社会におけるコミュニケーション、情報倫理のありかたとの関連性について考える。12. 日本と中国における人間関係のルールの共通点、相違点(面子など)について考える。13. 12で考えたことをもとに情報社会の倫理について考える。プライバシー観の違いについて考える。存在論という視点から情報社会の倫理について考える。今年度は昨年度と同様に、人工知能論、ロボット研究、ロボット倫理研究の最新の知見(知能や行動様式の創発など)を紹介し、新たな情報社会研究の創発、日本社会の変革(あたらな知恵、組織、文化、価値の創発)の可能性について考えていく。また、東北・北関東での地震被害、福島での原発事故といった状況を受け、担当教員が過去におこなった災害観研究、原子力利用意識調査の知見についても紹介する。			
単位取得要件			
備考			

BB11451

授業科目	文化・開発論 (Culture and Development)		
担当教員	前川 啓治	研究室	
単位数	2単位	オフィスアワー	
学期曜時限	2学期 木曜5・6時限	授業対象学生	2・3年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 慣習的な文化の接合事例を通して、文化の実践による動態性について説明することができる。 多文化主義の限界とネオリベラリズムの関わりを理解し、マイノリティの展望について語るすることができる。 開発における認識と実践の関係について理解し、開発とは究極的に何かを議論することができる。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 文化のインターフェースとは何かという点から、「情報としての文化」、「非文化エリートの表象」、「民族カテゴリーの読み換え」、「プロセスとしての開発」など、現在、人類学の焦点となっているテーマについて講読する。 1. 文化とは—文化のインターフェース 2. 「白人性」とはなにか 3. 宗教観念を超える慣習行為 4. 「外国人」というカテゴリー 5. 少数民族との共生と連帯 6. 開発としての地域づくり 7. 開発援助機関と人類学者 8. 儀礼の超越性 9. 疾病概念とモノ 10. 感覚・空間の人類学 教科書: 前川啓治編、『インターフェースの人類学』、新曜社、2012年(刊行予定) 参考書: 前川啓治 『開発の人類学』、新曜社、2000年。			
単位取得要件	期末試験によって判断する。授業中に出す課題も成績に加味される。追試、再試はしない。		
備考	▼社会・国際学群 コア・カリキュラム 平成18年度までの「国際コミュニケーション論Ⅱ」に相当		

BB11471

授業科目	スポーツ社会学 (Sociology of Sports)		
担当教員	松村和則 <火曜3限> 清水諭	研究室	B609
単位数	2単位	オフィスアワー	
学期曜時限	3学期 火・水曜3時限	授業対象学生	1年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 「大衆消費社会」の中でスポーツが肥大化していく過程を踏まえ、スポーツの世界を社会的に考察する。とくに、メディアに創り上げられたスポーツの現在の姿とともに、農山村では環境問題まで引き起こす巨大な「力」を得てしまった背景を考える。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 1. スポーツを定義する。 様々な社会理論からスポーツを解説する。 2 スポーツと社会化 3 スポーツにおける「逸脱」 4 社会階層とスポーツ 5 商業化するスポーツ 6 メディアとスポーツ 7 スポーツと政治 8 農山村の開発とスポーツ(1) 9 戦後地域開発とスポーツ 10. まとめ テキスト: J. Coakley & P. Donnelly(前田和司・大沼義彦・松村和則編訳)『現代スポーツの社会学』南窓社 2011 参考書: 松村和則編著『増訂版』メガ・スポーツイベントの社会学』南窓社 2007年 井上俊・亀山佳明編『スポーツ文化を学ぶ人のために』世界思想社 1999年 松村和則 編著 『山村の開発と環境保全ーレジャー・スポーツ化する中山間地域の課題ー』南窓社 1997年 P・ブルデュー『社会学の社会学』藤原書店 1991年 多木浩二 『スポーツを考える』ちくま新書 1996年			
単位取得要件	出席の要件を満たし、試験で60点以上を点数すること。		
備考	社会教育主事		

BB11471

授業科目	スポーツ社会学 (Sociology of Sports)		
担当教員	松村和則 清水諭 <水曜3限>	研究室	体育系棟B611
単位数	2単位	オフィスアワー	月曜15時～17時
学期曜時限	3学期 火・水曜3時限	授業対象学生	1年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 【目標】スポーツイベントとそれを取り巻くシステムの歴史を学びながら、身体の文化政治(人種、民族、ジェンダー、ナショナリティ、暴力など)のありようを理解する。【概要】甲子園野球、オリンピック、FIFAワールドカップなどのスポーツイベントとメディア、テクノロジー、グローバル資本企業の戦略、および消費社会の進展との関係性を学ぶ。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 1. 箱根駅伝をどのように読み解くか? 2. テレビとスポーツの物語: 甲子園野球 3. スポーツのビジネス化とメディアとしての身体 4. 60'sアメリカと人種問題: '68メキシコとアリ 5. スポーツの東京: '40-'64-'16の都市と国家 6. 沖縄と変容する東京: '64-772-'87-現在 7. 女性アスリートの表象と歴史: '28アムステルダムの人見絹枝 8. まとめ: スポーツ・メディア・身体を問い直す 【予習復習の方法について】スポーツの文化は身の回りに様々な形で現れています。事後学習として、学習した内容を具体的なスポーツや身体をめぐる事例をもとに考え、レポートの提出に備えてください。 【教材】清水諭(編)『オリンピック・スタディーズ: 複数の経験・複数の政治』(せりか書房, 2004)			
単位取得要件			
備考	社会教育主事、体育(W82 0501)と共通		

BB11823

授業科目	社会調査実習Ⅱ (Sociological Survey II)		
担当教員	五十嵐 泰正	研究室	人社A408
単位数	6単位	オフィスアワー	月曜5時限(メールで要予約)
学期曜時限	通年 金曜5・6時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 現代社会において商店街という小規模個人商店からなる商業集積のもつ魅力や可能性を、ひとつの具体的な商業集積を舞台に理論的かつ実践的に調査・分析する。また、この調査を通じて、社会調査法の基礎的な方法論を習得する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 2年間にわたって行われるプロジェクトの2年目にあたる本年度はまず、昨年度の「社会学演習Ⅳ」で得られたアメ横商店街に関する基本的な知見を共有するとともに、現在の小売業界を席卷する郊外型ショッピングセンターの「強さ」を、文献購読に実際の大規模店舗への視察も交えて、社会学のみならず商学や建築の観点からも検討する(1学期)。その上で、アメ横での実際の集客や販売の現状についての聞き取り調査や参与観察および、商業施設のイメージと利用のされ方などについてのアンケート調査を行い、アメ横を一つの象徴とする商店街型の商業集積について、ほかの商業施設と比較した場合に見えてくる魅力や強みと改善すべき点とを、個別の業態などに焦点を当てたいくつかの班に分かれて調査・分析してゆく(夏休み～2学期)。そして、アメ横表通り商店会に対して具体的な活性化策の提言を行うことを一つの成果目標として、ゼミ論の執筆を進める(3学期)。 上記調査の過程で、問題意識から作業仮説を策定し、それを実際の質問紙やインタビュー項目に落とし込んでいく、社会調査法の基礎的な方法論を実践的に習得することも、本演習の大きな目的である。			
単位取得要件	授業への貢献度と、ゼミ論文(12000字程度)から総合的に評価する。		
備考	昨年度に「社会学演習Ⅳ」を履修した学生の履修を歓迎するが、そうでない者も履修可。週末や長期休みの間に上野でのフィールドワークを頻繁に行うので、積極的かつ主体的な参加が望まれる。		

BB11992

授業科目	卒業論文演習 (Graduation Thesis Seminar)		
担当教員	全 教 員	研究室	各指導教員
単位数	3単位	オフィスアワー	事前にアポを取ること
学期曜時限	通年 集中	授業対象学生	4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 担当教員の指導を受けながら、卒業論文を執筆してゆく。当然のことながら、質の高い卒業論文を書き、これを合格させなければ、卒業することはできない。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 社会学主専攻の学生は、卒業論文に関連するスケジュールを随時確認しておくこと。本演習は4年次履修科目だが、以下に3年次からの主なスケジュールを示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・3年次11月最終週: 卒論中間報告会 (4年次の報告を聞き、卒論についてのイメージを固める) ・3年次11月末: 卒業論文仮題目届提出 (指導を希望する教員と事前に面談し、指導方針などを聞いておくこと) ・4年次4月中旬: 「卒業論文の手引き」配布 (卒論の執筆要項にあたる) ・4年次11月上旬: 卒業論文題目届提出 (これ以降の卒論題目の変更は認められない) ・4年次11月末: 卒論中間報告会 (執筆中の卒論について一人10～15分程度のプレゼンテーションを行う) ・4年次1月下旬: 卒論提出 (締め切り厳守) 3年次の仮題目提出の直前になって卒論のことを考え始めてももう遅い。4年次に卒論を書くといっても、締め切りまでを考えればそれは一年に満たない。社会学主専攻を選択したときから卒論のことを常に考え、自分なりの問題意識を持って講義・演習を選択・受講し、自分なりに学習を進めることが望ましい。指導教員と相談しながら調査計画・研究計画・執筆計画を立て、長期的な作業としてこれに取り組まなければ、質の高い論文は作成不可能である。 また、指導教員はあくまでも相談相手・伴走者であり、書くのは学生自身である。準備作業・執筆作業にあたっては、何よりも主体的な態度と意識が求められる。			
単位取得要件	卒論中間報告会で報告すること(日時や場所など、詳細は後日掲示する)		
備考	必ず「卒業論文(BB11998)」と併せて履修すること。		

BB11812

授業科目	社会学演習I (Seminar on Sociology I)		
担当教員	野上元	研究室	人社A412
単位数	3単位	オフィスアワー	メールでアポを取って下さい
学期曜時限	通年 火曜3時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 現代社会の起源としての①「1930年代」、②「占領期」、③「1960/70年代」のどれか、あるいはそれぞれを、社会史や思想史、文化史やメディア史を交錯させるような見地から立体的に考察してゆく。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 参加者の共同作業で、ひとつの時代／時期に関する歴史社会的な共同研究を行う。今年度は特に「1960/70」の日本社会を主題とするが、そのなかでも特にいわゆる「政治の季節」とよばれる時代の様々な社会運動や文化表現、メディアの作用あるいは社会構想(の拮抗)について、社会史・メディア史・文化史・思想史など様々な角度から検討することにしたい。併せて、この時代はどのような意味を持つ「過去」・「歴史」なのか(／「現在」なのか)、そしてそれが現代社会の何をどのようなかたちで規定しているかということを考えながら、われわれ自身の歴史意識の社会的な検討も試みることにしたい。授業の予定としては以下の通り。 1学期: 下記にあげた文献(一部)など関連する基礎的な文献を読み、当時の記録映像や当時は題材とした映画などを見る。 2、3学期: いくつかのサブテーマを設定し、各自が報告する ゼミの参加者は特定のテーマを決めて当該時代に関係する資料を漁り、(あるいは必要によっては)聞き取り調査などを試みる。受講を検討しているものは、「1960/70」の<社会的な>論点について、以下の文献を参考にしてもよい。 ●北田暁大・野上元・水溜真由美『カルチュラル・ポリティクス1960/70』せりか書房、2005年、●小熊英二『1968－若者たちの叛乱とその背景<上><下>』新曜社、2009年、●大塚英志『彼女たち』の連合赤軍－サブカルチャーと戦後民主主義』角川文庫、2001年、●佐藤信『60年代のリアル』ミネルヴァ書房、2011年など			
単位取得要件	分担した課題をきちんとこなすこと。毎回きちんと出席して議論に参加すること。		
備考			

BB11822

授業科目	社会学演習II (Seminar on Sociology II)		
担当教員	奥山敏雄	研究室	人社A410
単位数	3単位	オフィスアワー	木曜4時限
学期曜時限	通年 木曜3時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 現代社会において病いととも生きるという経験や死を直視して生きるという経験はどのようなものとして形作られているのか、その社会的文脈はどのようなものか考える。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 1学期 テーマに関するいくつかのテキストを輪読する。 2学期 夏休みに各自の関心からレポートを作成し、その報告と討論を行う。 3学期 ゼミ論の作成、報告、討論を行う。 ゼミ論を書くことを目標とするので、上記のテーマについて自分なりの問題関心をどのように社会学の見方や言葉で表現できるかが重要となる。テーマに関連する社会学の文献を読み、社会学の概念や考え方を身につけることと並行して、自分の関心を社会学の言葉で表現することを行い、文献を読むことと自分の関心を具体化することの往復運動をつうじてゼミ論を作成する。			
単位取得要件	出席、報告、討論、レポート、ゼミ論を総合的に評価する。		
備考			

BB11832

授業科目	社会学演習Ⅲ (Seminar on Sociology Ⅲ)		
担当教員	葛山 泰 央	研究室	人社A413
単位数	3単位	オフィスアワー	木曜 5時限
学期曜時限	通年 月曜4時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 〈構造主義以後〉の社会学的課題をテーマに、文献や関連するテキストの読解と検討を通して、言説分析や権力分析の可能性について探究する。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 【授業目標】この授業では、言葉と物の織り成す「秩序」としての〈文書館(アルシーヴ)〉が提起する様々な問題を、文献や事例から多角的に検討することを目的とする。 文書館とは何か。図書館が一般の書籍類をも含む、各種の出版刊行物を所蔵する施設を指すならば、文書館とは、行政文書や事務文書の収集・保存・公開を目的とする施設を指している。前者が知の輝かしい集蔵庫であるならば、後者は知の痕跡や残骸からなる薄暗い集蔵庫であると言えるだろう。 とはいえ、その薄暗さが解き放つ独特の魅力もまた存在する。ミシェル・フーコー(Michel Foucault 1926-1984)は、知の言説実践を批判的に解読する装置としての〈集蔵体=文書館〉の機能に着目し、それを〈考古学的=文書学的〉歴史記述の可能性の条件に据えた。狂気の歴史や臨床医学の歴史や人間諸科学の歴史、さらには監獄の歴史やセクシュアリテの歴史を巡るその一連の仕事は、私たちの〈文書館〉を記述すること、私たちの知の余白をなす、あの灰色の領域を探索することから生み出された。この意味での〈文書館〉を、歴史社会学の方法概念として捉え返し、「汚辱に塗れた人々の生」のような未完の仕事に秘められた潜在力を引き出す一方で、学問の歴史や図書館の歴史、百科事典の歴史や各種の辞典類の歴史といった仕事を構想することもできるだろう。それはまた、書誌学や図書館学、書物の社会史や読書の社会史などの成果を踏まえつつ、知と身体と言語の交錯する〈文書空間〉の歴史社会学とも呼ぶべき問題領域を切り拓く作業にも繋がるはずである。 【授業内容】文献の講読や関連する事例についての報告と討論を中心に進めたい。 【文献】ミシェル・フーコー『言葉と物——人間諸科学の〈考古学(アルケオロジー)〉』(日本語訳は新潮社)ほか			
単位取得要件	各学期の報告と討論を踏まえた総合評価(詳細は別途指示する)		
備考	今年度は「社会学研究法」と併せて受講することが望ましい。		

BB11862

授業科目	社会学演習Ⅵ (Seminar on Sociology Ⅵ)		
担当教員	樽川 典子	研究室	人社A407
単位数	3単位	オフィスアワー	火曜6時限
学期曜時限	通年 木曜6時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 「ケア」をテーマとして、介護・世話・育児がどのような文脈で社会的に成立してきたかを検討し、社会福祉にかんするテーマをジェンダーの視点や社会学の視点から考察する。演習は、社会学的思考、現実分析の方法を習得し、応用してみる場であるので、それぞれの関心にそって問いを探し解をもとめようとするdoing sociologyの姿勢がのぞまれる。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 授業では、目標を達成するために、つぎのようにおおきく2つの段階を設定する。 1. 上野千鶴子『ケアの社会学—当事者主権の社会福祉へ』をテキストにした輪読。 「ケア」が思想・倫理、制度、当事者、労働、家族介護の「自然性」などの多面的に観察でき、すべき社会事象であることを学び、それぞれの論考を理解する。 この段階では、毎週指定するテキストの章を各自が熟読すること。 2. 各自の関心にそってゼミ論文のテーマを設定して、論文構想を確定して執筆する。この段階では、それぞれの関心にそくした文献を選んで、各自の問いを設定することが重要になる。 具体的にはつぎのように進行する予定である。 1学期 : テキストの輪読とディスカッション 2学期 : テキストの輪読およびゼミ論文ため各自のテーマについてのディスカッション 3学期 : ゼミ論文の構想発表と執筆			
単位取得要件	ゼミでの報告およびゼミ論文の執筆		
備考			

BB11872

授業科目	社会学演習Ⅶ (Seminar on Sociology Ⅶ)		
担当教員	土井隆義	研究室	人社A411
単位数	3単位	オフィスアワー	火曜 14:00～16:00
学期曜時限	通年 木曜5時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 後期近代において登場した新たなメンタリティである「再埋め込み」志向について検討を加える。 使用テキストには必ず目を通し、ディスカッションに積極的に参加すること。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 Ⅰ. 授業内容: 学期ごとに次の要領で授業を行なう。 第1学期……演習に参加する学生全員で共通の文献を輪読していく。報告を担当する箇所をあらかじめ配分しておき、毎回、担当者が報告を行なった後、その内容について全員でディスカッションを行なう。 第2学期……後期近代における消費の特徴を考える上で、学生各自が関心のあるテーマについて基本的な文献を一つ取り上げて、その文献の概要と自分の意見を報告する。その後、報告された内容と意見について全員でディスカッションを行なう。 第3学期……後期近代における消費行動をめぐる問題群の中から、学生各自が関心のあるトピックを一つ設定して、そのテーマの下で自分の考察を進めて報告にまとめる。各回とも、担当者が自らの研究成果を報告した後、その内容について全員でディスカッションを行なう。 Ⅱ. 使用テキスト: 第1学期に使用する共通文献は、以下のとおりである。 A. ギデンズ、松尾精文・小幡正敏訳、『近代はいかなる時代か』而立書房、1993年 A. ギデンズ、秋吉美都・安藤太郎・筒井淳也訳、『モダニティと自己アイデンティティ』ハーベスト社、2005年			
単位取得要件	平常点とゼミ論文を総合的に評価する。		
備考			

BB11892

授業科目	社会学演習Ⅸ (Seminar on Sociology Ⅸ)		
担当教員	森直人	研究室	人社A409
単位数	3単位	オフィスアワー	メールにて随時相談
学期曜時限	通年 金曜2時限	授業対象学生	2～4年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 グローバル化の進展や福祉国家の再編・流動化を背景として、これまでの社会階層論の枠組みでは十分に捉え尽くせない「格差」「不平等」や「貧困」といった問題群が前景化しつつある。本演習では階層・階級論における量的／質的研究の代表的文献の講読から始めて、そうした問題群をも把握しうる階層・階級研究の新たな可能性を模索することを目標とする。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 授業の進行予定の概要は以下の通り。 【1学期】ポール・ウィリス(熊沢誠・山田潤訳)『ハマータウンの野郎ども』(ちくま学芸文庫)を全員で輪読する。 【2学期】各自の問題意識にあわせて2005年SSM調査研究の成果を著した下記の3巻本から論文を選定し、報告と議論を行う。 佐藤嘉倫・尾嶋史章(編)『現代の階層社会1 格差と多様性』東京大学出版会 石田浩・近藤博之・中尾啓子(編)『現代の階層社会2 階層と移動の構造』東京大学出版会 斎藤友里子・三隅一人(編)『現代の階層社会3 流動化のなかの社会意識』東京大学出版会 【3学期】各自の問題関心を深化させるための文献講読を課し、ゼミでの報告と議論を通じて各自の研究課題を明確化し、最終的なゼミ論文執筆にまでつなげる。 ・3学期末にゼミ論文(12000～16000字)を執筆・提出する。1年間の文献研究にもとづいた「先行研究レビュー&研究プロポーザル」という位置づけの論文とする。 ・2学期に指定している文献群を読む際には社会調査法や社会統計学の最低限の知識は必要だが、文献を読むなかで適宜確認しながら進める予定であるので予備知識はとくに必要ない(もちろん統計リテラシーはあるに越したことはない)。 ・授業が設定している問題関心は昨年度開講の講義科目「社会階層論」の延長上にあるが、それを履修済みか否かは受講要件として問わない。			
単位取得要件	ゼミでの報告内容の水準、議論での参加度・貢献度、および、ゼミ論文の内容で評価する。		
備考			

BB11962

授業科目	社会学外書講読I (Reading on Sociology I (English))		
担当教員	土井隆義	研究室	人社A411
単位数	1単位	オフィスアワー	火曜 14:00~16:00
学期曜時限	1学期 火曜2時限	授業対象学生	2・3年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 社会学に関する英語文献の講読をとおして、社会学の基礎的な知識を習得するとともに、書物を素材に議論を展開する技術を身につける。文献を輪読しつつ、必要に応じて解説を加える。たんに英文和訳をおこなうのではなく、テキストをもとに社会学的な議論を展開していくことを目指す。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 刑法を分析の対象とした犯罪社会学の文献を輪読し、必要におうじて解説をくわえる。たんに英文和訳をおこなうのではなく、テキストをもとにして議論を展開していく。テキストは以下のものを使用する。授業の開始時に、講読の対象となる部分のプリントを配布する。 David Garland, PUNISHMENT AND MODERN SOCIETY: A Study in Social Theory, CLARENDON PRESS,1990.			
単位取得要件	学期末の試験により評価する。		
備考			

BB11972

授業科目	社会学外書講読II (Reading on Sociology II (English))		
担当教員	土井隆義	研究室	人社A411
単位数	1単位	オフィスアワー	火曜 14:00~16:00
学期曜時限	2学期 火曜2時限	授業対象学生	2・3年次
【授業の目標と概要・学生への要望】 社会学に関する英語文献の講読をとおして、社会学の基礎的な知識を習得するとともに、書物を素材に議論を展開する技術を身につける。文献を輪読しつつ、必要に応じて解説を加える。たんに英文和訳をおこなうのではなく、テキストをもとに社会学的な議論を展開していくことを目指す。			
【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】 American Journal of Sociology に掲載された社会学の論文を輪読し、必要に応じて解説を加える。たんに英文和訳をおこなうのではなく、テキストをもとに議論を展開していく。テキストは以下のものを使用する予定である。第1回目の授業時に、プリントを配布する。 William Simon & John H. Gagnon, "The Anomie of Affluence: A Post-Mertonian Conception," American Journal of Sociology 82(2):356-378, The University of Chicago Press, 1976.			
単位取得要件	学期末の試験により評価する。		
備考			

BB11611

授業科目	社会学研究法 (Sociological Method)		
担当教員	葛山 泰 央	研究室	人社A413
単位数	2単位	オフィスアワー	木曜5時限
学期曜時限	1・2学期 月曜5時限	授業対象学生	2～4年次
<p>【授業の目標と概要・学生への要望】</p> <p>〈社会問題〉の生成と変容をテーマに、文献や関連するテキストの読解と検討を通して、西欧近代社会における貧困／悲惨の概念化と〈社会的なもの〉の出現について考察する。</p>			
<p>【授業の進行予定・授業外の予習復習方法・教材等】</p> <p>【授業目標】この授業では、フランス大革命以後（19世紀前半から現代にかけて）のフランス近代社会における〈社会問題〉の生成と変容を、文献や関連するテキストの読解と検討を通して考察する。</p> <p>「ここで問題になるのは、フランス大革命が市民社会の否認を通じて国家と市民との間に切り開くことになった空隙のなかから、いかにして〈社会問題la question sociale〉が姿を現すことになったのか、ということである。労働というものを通じて全てを解決することを期待しつつ、政治経済学はすでに独自の仕方、重商主義との関連におけるその分析の矛先を、交換の場面から生産の場面へと置き換えていた。所有権についての自由と一少しも極端なものではないという条件のもとでの—必然的な不平等のなかで、政治経済学は全ての人間にとっての幸福を夢想する。しかしここに貧者の大群が姿を現すことになる…。〈諸国民の富〉が増大する間に、貧困もまた拡大する。それは非常に激しいものであるために、集合的な破局（カタストロフ）の規模にまで到達する。〈貧困化le paupérisme〉である。なぜこのような破局がもたらされたのか、いかにしてこのような破局がもたらされたのか、そしてとりわけ、このような破局といかに向き合えばよいのか。」[ジョヴァンナ・プロカッチ『悲惨を統治する (Gouverner la misère)——フランスにおける社会問題 1789～1848年』所収の、ミシェル・ペローによる「序論」からの引用]</p> <p>【授業内容】文献や関連するテキストについての読解と検討を中心に進めたい。</p> <p>【文献】富永茂樹「統計と衛生——社会調査史試論」[阪上孝(編)京都大学人文科学研究所報告『1848 国家装置と民衆』ミネルヴァ書房所収)、ジョヴァンナ・プロカッチ『悲惨を統治する——フランスにおける社会問題 1789～1848年』[フランス語のみ]、ピエール・ロザンヴァロン『新しい社会問題——福祉国家を再考する』[日本語訳は勁草書房]ほか</p>			
単位取得要件	各学期の報告と討論を踏まえた総合評価(詳細は別途指示する)		
備考	今年度は「社会学演習Ⅲ」と併せて受講することが望ましい。		